

## 高島藤樹会

(題字は、竹協曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740 (32) 4156

## 藤樹先生に学ぶ家訓

上田 藤市郎



最近の学校は、子どもの学力の向上を誇っているようだが、その学力を生かす高潔な人格の育成が不十分だと、品性のない政治家、悪徳企業家が育つことになる。藤樹先生の教えから、よい人柄が育つ家庭について考えてみたい。人間の幸せは、長寿に恵まれ、家族仲良く、子や孫も元気でいることである。世の中で一番大切なものは、一人ひとりの人間、である。昔は、国のために命を犠牲にすることを強制されたが、今は、市民の幸せを守るのが、国や県市の責務である。人間は家庭で育つのであるから、家族を大切に育ててきたのは、その家の祖先であるから、祖父母や両親を尊敬し、丁寧なことばづかいをさせるのがよい。法事など親族が出会う機会に、先祖や故人の話を子どもに語り、感謝の気

持ちと宗教的な行事を大事にする態度を示す。隣近所の人に挨拶させ、行事に参加させて地域のことをよく知っている子どもに育てる。

今は、お金を出せば欲しい物が手に入る時代であるが、作られた物の値打ちを考え、物に対するつましい気持ちで育てる。お金は、それを得る苦労を知らせてできるだけ使わない習慣を身に付けさせる。食べ物や粗末にせず分け合う。道具は共用し修理して長持ちさせる。最小限に消費することが美徳であるという考え方を大事にする。ごみの分別、資源の再利用、再生など、環境に配慮した生活の仕方を子どもに実践させる。同様に掃除、整理、整頓を徹底する。

私たち人間は、家族の人のおかげで生まれ育てられたので元気で生きていられる。この人生はたった一回きりのもので、事故や病気、自殺などで死ぬようなことがないよう十分気をつけなければならぬ。自分の命はとても大切なものだが、それはすべての人にとつても同様で、他人の命の大切なことは言うまでもない。毎日の生活でいやなことがあると、やる気がなくなる。だれもいやなことを望んでいない。だから、自分がいやなことを、人に言ったり、したりしてはいけない。人を差別する発言や争い事、国家間の戦争などは、いずれも、お互いの心と体をひ

どく傷つけるから、絶対やってはいけない。幼い子、障害のある人、病気の人、お年寄りなど困っている人には、その人が本当に望んでいることを聞いて、自分にできる範囲内で人を助ける行動力をもった人になることである。

人間は、生まれつき美しい心をもっていると言われているけれども、その心をそのまま実行できるようになるには、やはり、不断の気づきと心がけが必要である。子どもの心は純真だけれども、仲間をいじめることがある。幼少のころから、良い事と悪い事をきちんと教え、良いことを実行する勇氣、悪いことを避ける努力をくりかえさないと、しつかりとは身につかない。知識や技術を習得するのと同じように、美しい心とその実行力も鍛えることによって磨かれる。心の勉強もとても大切である。

勉強やスポーツ、仕事あらゆる面で、うそをつかない、ごまかさな、約束を守る、不正なことは絶対しない。また自分ができるからといって、人をばかにする、いばる、えらそうにするようなことは、決してやってはいけない。まっすぐ生きること、周りの人から信頼される人になるよう努力させなければならぬ。